

奈良学園中学校・高等学校 令和3年度 学校評価総括書

I 教育活動に関するもの

項目ごとの評価(4段階評価 A:極めて達成度が高い B:概ね達成できている C:課題を残している D:課題が多く速やかな改善が必要)

大項目	中項目	小項目	具体的方策(評価指標・観点)	評価	成果と課題	改善方策	第三者委員からの意見
I 教育活動に関するもの	(1) 教育目標・教育計画	① 教育目標について	「至誠力行」の校訓の下、次の社会を担い、世界に雄飛する人材を育成する。	A	・学校経営方針を全教職員で共有するとともに、それに基づいた各分掌の計画を確認した。	・自学自習の重要性を伝えながら、より具体的な取組を実施する。	適切に実施されています。
		② 教育計画について	第2期SSHの3年目の教育活動を計画に基づいて進める。また、学習指導要領の改訂にともなう高校の教育課程を編成する。	A	・コロナ禍にあつて、SSHベトナム研修などが実施できなかったが、代替研修を実施するなど、当初の目的を達成するよう努力した。 ・新たな高校新教育課程を編成した。	・SSHについては、課題研究を充実させるために、ルーブリックに基づいた評価をHPで公開するとともにその実践をさらに進める。第3期SSH指定に向け、研究テーマ及び研究方策を明確にしていく。	適切に実施されています。
		③ スクールポリシーについて	学校ビジョン委員会を設置して、スクールポリシー等について検討を始める。	B	・学校ビジョン委員会を3回開催し、本校の現状と課題等について協議した。今後、各課程における目標を明確にすることで、3つのポリシーの策定につなげる。	・学校ビジョン委員会を継続して開催し、課題解決に向けた具体的な方向性を探る。	適切に実施されています。
	(2) 教科指導	① 学習指導計画の立案について	6カ年を見通して、各学年および各教科において、学習指導計画を策定し、その計画に基づき授業を実施する。	B	・中1・中2の英語・数学の授業で少人数授業を継続して実施している。 ・学習計画については、スタンダードが定まらず、教科の統一感をより強化する必要がある。	・各教科における教科指導の課題を明確にするとともに、観点別評価の研究を進める。	観点別評価については、早急に研究を進められることを期待します。
		② 指導方法の工夫	生徒の深い学びや学習内容の定着に向け、授業改善に努める。 (生徒アンケート) ①私は、授業を通して学習内容を深く考えることができるかどうか。 ②授業は、新たな知識を得たり、疑問を解決したりするために役立っているかどうか。 ③学校のコンピュータや情報通信(ICT)に関連する施設・設備が充実しているかどうか。	B	・年2回、教科ごとに研究授業を実施した。また、ICT教育推進委員会を設置し、ICTのより効果的な活用方法を研修するとともに、来年度の新入生からipadを導入することとした。 ・今後は学力向上や学習内容の確かな定着に向けての具体的な取組を検討する必要がある。 ＜アンケート結果＞ ①「(どちらかと言えば)そう思う」90.0%であるが、「そう思う」だけでは33.8%。 ②「(どちらかと言えば)そう思う」94.1% ③「(どちらかと言えば)そう思う」84.0%	・学力向上推進委員会を設置し、中学校、高等学校それぞれの課題を共有し、改善の方向を協議する。 ・ICT教育推進委員会が中心となり、全職員がICTを積極的に活用できるよう、研修会を開催する。 ・すべての教員が、ICTを活用し学習内容を深く考えさせる授業方法を創意工夫しなければならない。	課題を適切に把握し、適切な改善方策を計画されています。
	(3) 道徳(人権教育)	道徳(人権教育)について	人権感覚や規範意識を身に付けるように指導計画を作成し、人権教育活動を実施する。 (保護者アンケート) ①授業や映画鑑賞などを通して、適切な人権教育が行われているかどうか。 (生徒アンケート) ②ホームルームや学級活動の時間などで、自分の生き方、あり方について考える機会があるかどうか。	B	・人権教育部による「心のプリント」を毎月配布するとともに、中高において、それぞれ人権映画会を実施した。 ・生徒会・各委員会において、人権啓発を意識した取組を展開できた。 ・中学校「特別の教科道徳」の3年間を見据えた指導計画の改善が必要である。 ＜アンケート結果＞ ①「(どちらかと言えば)そう思う」90.7%であるが、「そう思う」だけでは32.7%。 ②「(どちらかと言えば)そう思う」68.9%であるが、「そう思う」だけでは26.4%。	・ホームルームや学級活動の時間などにおいて、人権教育部の計画に基づき、生徒の実態に合った人権教育を各担任が工夫して行う必要がある。また、人権に関する様々な課題について、自分と他者の違いを認め合い、互いを尊重することについて考えさせるなど、当事者意識を持たせながら進める必要がある。 ・地道で継続的な取組により、人権意識の向上を図る。特に、委員会活動の取組をさらに自主的なものにする。	道徳の時間を中心として「心のプリント」や人権映画会など、生徒に生き方や人権について考えさせる機会が、適切に設けられています。取組それぞれについて、質問紙等で生徒や保護者の受けとめを確認しながら、より生徒の実態に応じた人権教育を推進されることを期待します。
	(4) 特別活動等	① 生徒会活動について	自主的・主体的に行動できるよう、生徒会指導部を中心に、適切な指導と助言をおこなう。 (生徒アンケート) ①生徒会(委員会)活動やホームルーム(学級)活動に積極的に取り組んでいるかどうか。	B	コロナ禍のなか、生徒会役員・文化祭実行委員会を中心に生徒自らが「新しい生活様式における文化祭」を企画・運営し、自主的かつ主体的な力を存分に発揮した。 ＜アンケート結果＞ ①「(どちらかと言えば)そう思う」63.5%であるが、「そう思う」だけでは中学校では22.0%。	・今後もコロナの感染状況を注視しながら、生徒の自主的かつ主体的な取組を見守る。 ・特に中学校での学級活動において、生徒の自発的かつ自治的な活動が助長されるよう、計画的な事前準備を実施する。	新型コロナウイルス感染拡大の中、生徒に主体的に考えさせ、文化祭等を運営させられたこと、先生方はご苦労されたことと思いますが、生徒の大きな学びになっていることと考えます。今後も学級活動、ホームルーム活動等についても生徒が主体性を発揮できるよう計画的に取り組まれることを期待します。
		② クラブ活動について	クラブ活動をととして、心身の健全な育成のみならず、挨拶等の礼儀や協調性を育む。 (保護者アンケート) ①部活動を通して、生徒の人間形成が育まれているかどうか。 (生徒アンケート) ②部活動は充実していたかどうか。 ③勉強と部活動の両立ができたかどうか。	B	コロナ禍のなか、目標をもって活動し続けることが出来た。挨拶の励行が課題である。 ＜アンケート結果＞ ①「(どちらかと言えば)そう思う」88.9% ②「(どちらかと言えば)そう思う」95.0% ③「(どちらかと言えば)そう思う」88.9%であるが、「そう思う」だけでは32.4%。	・運動・文化部活動の在り方に関するガイドラインを踏まえつつ、本校の特色である文武両道をより高いレベルで実現できるよう、両立ができている生徒やできていた卒業生に、その取組方法や意識の持ち方などを発表する場を設け、生徒全体の意識改革を行う。	各教科の学習とバランスを取りながら、部活動についても適切に行われています。改善方策に示された方法も適切で効果的であると考えます。挨拶の励行についても計画的に指導されることを期待します。

項目ごとの評価(4段階評価 A:極めて達成度が高い B:概ね達成できている C:課題を残している D:課題が多く速やかな改善が必要)

大項目	中項目	小項目	具体的方策(評価指標・観点)	評価	成果と課題	改善方策	第三者委員からの意見
I 教育活動に関するもの	(5) 総合的な学習の時間の指導	特別講座、「卒業論文(課題研究)」について	広い視野を養い、興味・関心を高めるために、学外から有識者を招聘した特別講座等を実施する。 また、中3における「卒業論文(課題研究)」の指導を工夫する。 (中3生徒アンケート) ①卒業論文(課題研究)を通して得るものがあったかどうか。	A	・中学3年生を対象に特別講座「法学教室」「財政教室」を実施した。また、SSH事業の一環として、科学に対する興味・関心を高めるため、出前講義や公開講座を開催した。 ・中3生一人一人が「卒業論文(課題研究)」を完成した。 <アンケート結果> ①「(どちらかと言えば)そう思う」88.7%	・可能な限り、外部人材による講座等を企画し、生徒の多様なニーズに対応していく。 ・「卒業論文(課題研究)」が課題研究にスムーズに繋がるものとなるよう、内容、方法を検討する。	たいへん質の高い取組が実施されています。
	(6) 生徒指導	① 生徒指導について	集団生活のマナーやルールを理解させるとともに基本的な生活習慣を確実に確立させるよう指導する。また、いじめアンケート等とおして、いじめ事象の早期発見・解決を図る。 (いじめ問題認知率100%) (保護者アンケート) ①いじめを許さない取組が適切に行われているかどうか。 ②規範意識や基本的な生活習慣が身につくように指導が行われているかどうか。 (生徒アンケート) ③学校では、生活面の指導が適切に行われているかどうか。 ④私は、校内清掃や美化にしっかり取り組んでいるかどうか。	B	・学級活動やホームルーム活動等とおして、集団生活のマナーやルールを理解させることに努めた。 いじめ事象の現状・・・SNSの不適切な利用によるものが多い。背景にコミュニケーションを図る上で相手の気持ちをくみ取ることができないことがある。 <アンケート結果> ①「(どちらかと言えば)そう思う」78.9%であるが、「そう思う」だけでは18.0%。 ②「(どちらかと言えば)そう思う」84.5% ③「(どちらかと言えば)そう思う」83.8% ④「(どちらかと言えば)そう思う」86.1%	・中学校における基本的な生活習慣の向上を図り、集団における自分を自覚させる取組を展開する。 ・生徒指導部と学年団が連携し、年間3回の「いじめに関するアンケート」により、いじめに繋がる可能性を早期に発見し、早期に対応する。 ・規範意識や基本的な生活習慣を生徒に身につけさせるために、すべての教職員が繰り返し粘り強く生徒と向き合う必要がある	日々のあらゆる教育活動を通して、丁寧に取り組まれていると考えます。引き続き、丁寧に取り組んで行かれることを期待します。
		② 教育相談等について	中学・高校という思春期特有の多様な悩みを持った生徒に対し、教育相談の体制を充実し、その支援を図る。 (保護者アンケート) ①生徒の悩みを把握して迅速な対応が行われているかどうか。 ②スクールカウンセリングの体制が整い、必要なときに活用できるかどうか。 (生徒アンケート) ③先生は、生徒の悩みや困り事を把握して迅速に対応しているかどうか。 ④必要なときに保健室やカウンセリング室で悩みの相談ができるかどうか。	B	日常的教職員による相談活動の他に、スクールカウンセラーとの面談を設定することで、相談を必要とする生徒・保護者への対応に努めている。 生徒指導情報共有システムを導入し、各生徒の課題等を必要に応じて教員間で共有できた。 スクールカウンセラー活用状況(2月まで) 中学23件のべ73回 高校35件のべ102回 <アンケート結果> ①「(どちらかと言えば)そう思う」72.9% ②「(どちらかと言えば)そう思う」78.0% ③「(どちらかと言えば)そう思う」75.0% ④「(どちらかと言えば)そう思う」65.4%	・今後もスクールカウンセラーを週2日配置し、有効的な活用を図るとともに、教育相談体制について生徒・保護者への周知が必要である。 ・生徒指導情報共有システムの効果を検証していく。	教育相談の体制が適切に整えられていると考えます。改善方策にも示されているとおり、より相談を受けやすいよう周知に努められることを期待します。
(7) 進路指導	進路指導について	生徒の進路実現に向け、学年に応じた学力養成のための指導を実施する。 (保護者アンケート) ①生徒の進路実現に向けた取組が行われているかどうか。 (生徒アンケート) ②学校では、進路を考える指導が適切に行われているかどうか。 ③学校では、進路選択についての情報が十分に提供されているかどうか。	B	・各学年において外部模試等を実施するとともに、補習を実施した。高校3年においては志望校別に、大学の名を冠した講座を中心に26講座開講した。また中学1年～高校2年においては、調査や模試の成績をもとに、上位層を伸ばす講座および下位層をフォローする講座を開講した。 ・コロナ禍のなかで、中3・高1を対象とした東大・京大見学会をリモート実施した。 ・高2生を対象とした冬季セミナーは学校において通いで実施した。 <アンケート結果> ①「(どちらかと言えば)そう思う」76.8%であるが、「そう思う」だけでは中学校では23.8%。 ②「(どちらかと言えば)そう思う」77.4% ③「(どちらかと言えば)そう思う」73.1%	・各学年に応じた進学セミナーを有効的に実施する。大学入試改革への対応の一つとして、学習や課外活動等の取組や成果などについて、ポートフォリオ化をより充実させていく。 ・特に中学校での進路指導、キャリア教育の充実を図る必要があり、当該学年及び進路指導部を中心に検討していく。	生徒の進路実現に向けた取組が十分に工夫され適切に実施されています。改善方策に示された、全体指導と個別指導の両面からのアプローチも適切であると考えます。	

奈良学園中学校・高等学校 令和3年度 学校評価総括書

II 学校経営に関するもの

項目ごとの評価(4段階評価 A:極めて達成度が高い B:概ね達成できている C:課題を残している D:課題が多く速やかな改善が必要)

大項目	中項目	小項目	具体的方策(評価指標・観点)	評価	成果と課題	改善方策	第三者委員からの意見
II 学校 経営 に 関 す る も の	(1) 組織運営	校内会議の運営と位置づけ	学年主任会議、校務分掌の長による校務運営会議、職員会議を定期的に開催し、全教職員が課題意識を共有できるように努める。	A	・左記の会議を開催し、報告・相談・連絡により、情報や課題意識について教職員間で概ね共有することができた。	・校務運営委員会及び各委員会をより機能を生かしながら、学校運営のさらなる活性化を図る。	適切に学校組織の運営が進められています。
	(2) 研究・研修	① 校内研修	教職員の資質及びスキルを高めるため、校内研修を実施する。	B	・教務部の主導による研究授業を実施することができた。また、観点別評価に関して講師を招聘して研修会を実施した。 ・定期的な人権職員研修を年5回おこなった。	・AL型授業やICTを活用した授業研究を推進する。	研修すべき課題が様々ある中、優先度の高いものから校内研修を着実に実施されています。
		② 校外の研修への参加	教職員の資質及びスキルを高めるため、校外での研修にも積極的に参加する。	B	・予備校が主催する学習指導スキル向上等の研修会はコロナ禍のなかで、多くがリモートによる実施となったが、のべ49名の教員が参加した。また、県立教育研究所が開催する研修会にも参加した。	・教科指導に関する研修の成果を各教科等で一層共有していく必要がある。	先生方は積極的に校外での研修会に参加しておられます。
	(3) 安全管理	危機管理体制について	教員の安全管理の意識を高め、生徒が安全で安心して過ごせる環境作りに努める。 (保護者アンケート) ①登校時の安全指導が適切に行われているかどうか。 ②新型コロナウイルス感染症の感染対策が適切に行われているかどうか。 (生徒アンケート) ③学校では、防災訓練を通して、災害時や非常時の避難経路の確認が行われているかどうか。 ④学校では、登校時の安全指導が適切に行われているかどうか。 ⑤学校では、新型コロナウイルス感染症の感染対策が適切に行われているかどうか。	A	・防災避難訓練では火災による避難を想定し、シェイクアウト訓練もおこなった。また、熱中症等を防止するための救急法等講習会、自転車安全運転のための指導を継続実施した。 ・新型コロナウイルス感染症の感染対策として、全生徒分の飛沫防止ガードを用意し、食事時等の感染防止の徹底を図り、クラスターの発生を抑えた。 <アンケート結果> ①「(どちらかと言えば) そう思う」85.8% ②「(どちらかと言えば) そう思う」86.8% ③「(どちらかと言えば) そう思う」75.5% ④「(どちらかと言えば) そう思う」82.2% ⑤「(どちらかと言えば) そう思う」82.4%	・引き続き、防災避難訓練、救急法等講習会、自転車安全運転のための指導を、工夫しながら実施していく。特に自転車マナーについての指導を徹底して行う。 ・今後も可能な限りの新型コロナウイルス感染症の感染対策を実施していく。	防災避難訓練やウイルス感染対策の取組など、安全な学校生活を守る取組が適切になされています。また、危機管理体制も十分に機能していることが、保護者、生徒双方のアンケートからうかがえます。
	(4) 保健管理	保健指導・教育相談について	生徒の健全な心身の発達を促すとともに、必要な情報の収集及び啓発に努める。 (保護者アンケート) ①スクールカウンセリングの体制が整い、必要なときに活用できるかどうか。 (生徒アンケート) ②必要なときに保健室やカウンセリング室で悩みの相談ができるかどうか。	B	・健康診断を通じた保健指導等をおこなった。また、食物アレルギー事故防止に努めた。 <アンケート結果> ①「(どちらかと言えば) そう思う」78.0% ②「(どちらかと言えば) そう思う」65.4%	・スクールカウンセラーと教職員との情報交換を定期的 に実施する。 ・教育相談体制について生徒・保護者への周知が必要である。 ・教員はSCの専門的な意見を仰ぎ、生徒対応に活かしていく必要がある。	必要な保健管理の取組がなされています。また、課題に対する改善方策も適切であると考えます。
	(5) 家庭・地域との連携	① 地域との連携について	地元自治会や近隣の福祉施設と連携しながら、地域とのつながりを深める活動をおこなう。	A	・コロナ禍にあっても十分に地域との連携行事ができなかった。 ・「近畿SSH環境活動フォーラム」を本校主催で実施し、里山の再生整備について学術交流ができた。また、地域の小学生を招いて「奈良学塾(里山をそだてるクラブ入門編-)」を開催した。	・近隣住民の学校に対する信頼を深めるために、通学マナーなど、日常の生徒の行動に対する指導を徹底する。 ・各行事をより充実させ、本校教育活動を理解いただくように努める。	感染症拡大の影響により、地域との連携による行事の実施が難しい中、「奈良学塾」など、生徒の成長につながる地域連携の取組が着実になされています。
② 保護者・育友会との連携について		保護者との懇談等とおして、学校との共通理解を図る。 (保護者アンケート) ①保護者会や三者懇談、学年だよりを通して、学校の様子をうかがい知ることができるかどうか。	A	・1学期に1回、2学期に1回、学年ごとに保護者会をもち、学校と保護者の相互理解を図った。育友会活動がなかなか実施できないなかで、育友会の役員の方と学校管理職との懇談の場を3回設けることができた。 <アンケート結果> ①「(どちらかと言えば) そう思う」87.2%	・本部役員との定期的な懇談を計画するとともに、学校評価委員会に参加いただくように評価委員会をより組織化していく。	保護者会等の機会が十分に設定できており、保護者とのコミュニケーションが十分にとれていると考えます。	
(6) 施設・設備	教育環境の整備について	全教職員が連携して学習環境を整備する。また、既存の教育施設の補修も計画的におこなう。	B	・校務システム更新を進めることができた。また、必要に応じて、既存設備の改善・補修に努めた。	・学校施設の長寿命化を図るために計画的な整備計画を検討する。	学習環境整備の基盤となる校務システムの更新がなされ、また、設備の補修等についても適切に進められていることがうかがえます。	

項目ごとの評価(4段階評価 A:極めて達成度が高い B:概ね達成できている C:課題を残している D:課題が多く速やかな改善が必要)

大項目	中項目	小項目	具体的方策(評価指標・観点)	評価		成果と課題	改善方策	第三者委員からの意見
II 学校経営に関するもの	(7) 情報管理・提供	① 個人情報の管理・保護について(未)	学校法人奈良学園個人情報保護基本方針に則り、個人情報の管理について周知徹底する。	A	B	・個人情報管理については、全職員に注意徹底を図るよう促し、適切に対応できた。	・常に教職員に生徒個人情報の管理を厳重に行うよう指示し、継続して注意喚起を行う。	個人情報の管理・保護について適切に実施されています。
		情報の提供について	HP等を通して、本校の教育活動に関する情報や資料の公開・提供に努める。 (保護者アンケート) ①学校のホームページから最新の情報や必要な情報を得ることができるかどうか。	B		・HP上で、学校行事等の様子を伝え、情報提供に努めた。 <アンケート結果> ①「(どちらかと言えば)そう思う」75.3%	・HPを刷新し、外部の方にもわかりやすい情報発信に努める。	HP上で、教育活動等の情報提供が適切になされています。様々な媒体の活用の可能性も検討されながら、さらに情報発信に努められることを期待します。
	(8) 入試及び広報活動	① 広報活動について	受験生保護者や子どもたちに対し、本校の特徴や教育内容を周知する。	B	B	・コロナ対策の観点から、少人数による学校見学会を6回実施するとともに、中学入試説明会を2回、高校入試説明会を1回実施した。	・本校の特徴やよさをより理解していただくよう、学校見学会・説明会、塾等での説明会におけるプレゼンテーションの方法等について工夫・改善を継続して行い、志望者の増加を目指す。	受験生等に対し、説明会の機会を十分に設定し発信しておられます。HPやその他媒体での発信なども有効ではないかと考えます。
		② 入試事務について	入試問題作成、事務作業、採点・発表作業など、入試全般にわたる作業を滞りなく実施する。	A		・守秘義務を徹底したうえで、厳正な入試を行った。また、Web出願・採点方法を改善により、入試事務をより円滑に進めることができた。	・今後も、守秘義務を徹底したうえで、厳正な入試を行っていく。 ・中・高の入試実績の分析を適切に行い、入試のあり方の検討に役立てる。	入学試験事務が、全般にわたり適正に実施されています。